第１回定例会は、15人の議員から一般質問がありました。紙面の都合上、各議員が指定した質問事項とその答弁を要約して掲載しています。詳細については、十和田市ホームページ内、会議録検索システム（６月掲載予定）をご覧ください。

山　端　美樹子
（自民公明クラブ）

妊娠を望む方への支援拡充を

早期実現に向けて取り組む

問　妊娠前検査（不妊検査）に対する経済的支援について、市の取組は。

答　妊娠しにくい原因などを調べる不妊検査に対する経済的支援は行っていませんが、妊娠を希望する方と家族に対し、風疹抗体検査及び風疹含有ワクチンの接種費用助成を行っています。

問　不育症に対する市の取組は。

答　不育症に関する相談に対し、県の不育症検査費用助成事業や、具体的な助言が得られるよう不妊専門相談センターを紹介しているほか、不育症と思われる方を把握した場合は、担当の妊産婦指導員が医療機関等と連携して受診につなげるなど、寄り添い型の支援を行っています。

問　不妊症や不育症治療には市外に通院しなければならないため、通院費用を助成する考えは。

答　今後検討していきます。

問　不妊治療と仕事の両立支援について、企業と市の関わりは。

答　市ホームページにおいて、不妊治療と仕事の両立支援に関する情報提供を行っていますが、企業における職場づくりが今後ますます重要になると考えていることから、市内企業等に対し、機会を捉えて普及啓発に努めていきます。

問　妊娠を望む方への支援を拡充する考えは。

答　どのような支援が必要か、また、効果的かを情報収集し検討している状況であり、予算を含めた事業の制度設計を進め、早期実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

問　ひとり親家庭や低所得子育て世帯等の子供に対する学習支援として、大学等受験料や模試受験料の助成を行う考えは。

答　有効な支援であると認識しており、事業効果等を検証し、実施について検討していきます。

小山田　剛　士
（黎明親和会）

中心市街地活性化に向けた取組は

実現可能な提案は支援を惜しまない

問　中心市街地活性化に向けた現在の取組と今後の方針は。

答　平成31年に国の認定を受けた中心市街地活性化計画により、中心市街地の魅力向上と都市機能の強化を図ってきましたが、新型コロナウイルスの影響により、民間事業者の取組の多くが実施に至らず、計画策定時から大幅な改善は見られませんでした。商店街関係者と一体となって活性化に向けた取組を進めていく必要があると考えており、現在、中心市街地活性化協議会では、商店街の将来像を具現化するエリアビジョンの作成を目指したワークショップを行っています。この中で具体的な提案がなされた際は、実現可能なものは支援を惜しむことなく、にぎわいと魅力あふれる中心市街地づくりに取り組んでいきたいと考えています。

問　2020年に国が創設したほこみち（歩行者利便増進道路）制度は、道路管理者がほこみちとして指定する道路の歩道上にオープンカフェやベンチなどの設置が可能となり、歩道の柔軟な利活用が進むと考える。市が主体となり、ほこみち制度を活用して事業を行う考えは。

答　制度は承知していますが、今後、具体の内容等について調査研究していきます。

問　飲食店などを営む方が自店舗前の歩道を活用し、商売をすることは可能か。

答　歩道内の道路占用の許可は、それぞれの道路管理者が規定により行っており、市では秋まつりなどの市が主催、共催、後援するイベントに限り許可しています。他自治体では、地域の活性化やにぎわい創出等の観点から、道路の占用について弾力的な運用を行っている事例もあることから、今後調査研究をしていきたいと考えています。